

教育実践総合センターニュース

NO. 9 2015年 3月

目次

あいさつ センター長 岩川 直樹 …… 1	学校臨床心理部門より …… 4
教職員キャリアアップ・サポートセミナー … 2	教員養成開発部門より …… 5
二つの共催研究会！！ 充実しました …… 2	おしらせ・スタッフ・アクセス …… 6
教育実践研究部門より …… 3	

いくつも教育のなかで、 教育が忘れられている

センター長 岩川 直樹

目の前の子どもの姿に関心を向け、その底にある願いやもがきに伝えようとするなかで、自分たちの授業や教室の在り方を問い直しつづけてきた教師たちにとって、現代の社会と教育の状況はまぎれもなく長い冬の時代である。

狭い意味での「学力向上」対策にいっこうに賛同していなくても、教室には学力テストの過去問がどっさり配られ、それを朝の会に子どもたちにやらせるとせつつかれる。スキルばかりのコミュニケーション教育にまったく納得していなくても、ソーシャル・スキル・トレーニングの講習に行かされ、子どもたちに一律に「上手な断り方」のロール・プレイを実施するはめになる。教室の秩序は外側からの規律の強化によってではなく、互に関心を向け合う内側からの関係の生成によってこそゆたかになると確信していたとしても、発言の仕方や返事の仕方などが事細かに定められた「〇〇スタンダード」を教室の壁に貼らねばならなくなる。

芳しくないデータやショッキングな事件が現れるたびに、マスメディアがそれをセンセーショナルに取り上げ、いともたやすくひとびとのなかにそれらを「社会問題」と見なす世論が作りだされる。だからこ

そ、その水際でデータや事件の意味を問い直すことが重要なのだが、それらを多角的に議論する間もなく、教育行政は問題への「対策」を早急に講じることに駆られ、教育研究がそのためのプログラム開発に参与する。その結果、いくつもの「〇〇対策」や「〇〇教育」が降り止まぬ雪のように学校現場に積もりつづけている。ある自治体の教育委員会に三年間つとめた教員は、自分の在職期間中に学校現場に促した「〇〇対策」や「〇〇教育」の数が優に三十を超えていたのを見て重い溜息をついていた。

「〇〇対策」や「〇〇教育」は、いずれも一般的な技法やプログラムとして子どもたちや生徒たちに一律に施すものである。それらの実施に追われれば追われるほど、目の前の子どもの姿に関心を向け、その子どもの自己形成の願望や葛藤に伝えようとする教育の意味は見失われることになる。「いくつも教育のなかで、教育が忘れられている (In multiple educations, education is forgotten)」。およそ100年前に『民主主義と教育』のなかでデューイが語ったこのことばは、いま、わたしたちの身に痛烈に響く。

だが、子どもに施す「教育」が幾重にも降り積もるこの冬の時代のただなかで、目の前の子どもに伝える教育をいとなみつづけている教師たちがいる。いつの頃からかわたしはそうした教師たちを越冬隊と呼ぶようになった。越冬隊の教師たちは長引く冬の時代のなかで、状況に対するしなやかでしたたかな抵抗の知恵を紡ぎ出している。そうした教師たちの抵抗の知恵を分かち合う場やネットワークを生み出すことによってこそ、教育の実践的探求の脈動は保たれてゆくものなのではないだろうか。

『教職員キャリアアップ・サポートセミナー』

当センターでは、平成23年度より、地域貢献の一環として、さいたま市の教職員を対象とする研修会「教職員キャリアアップ・サポートセミナー」を実施しています。

「教職員キャリアアップ・サポートセミナー」は、臨時的任用教員を中心とした全ての教職員を対象に、さいたま市の教職員全体の資質能力の向上を図るとともに、非正規採用の教職員が自信を失うことなく正規採用教員へと向かっていくことができるよう支援していくことを目的としています。

平成26年度は、発達障害やいじめ・不登校などの現代的課題を抱えた学校現場における児童生徒への指導・支援の充実を図るため、4回のセミナーを実施しました。

回	実施日 <14:30~17:00>	テーマ
1	6月21日(土)	発達障害やいじめ・不登校などの現代的課題
2	9月6日(土)	個別面接
3	10月18日(土)	アサーショントレーニング(さわやかな自己主張訓練)
4	1月24日(土)	家族・対保護者の問題

二つの共催研究会!! 充実しました。

当センター(教育実践研究部門)と、県内で充実した活動を続けている教師たちの自主研究会の共催で、二つの研究会を実施しました。

「リアリスティック・アプローチ(ALACTモデル)による 教師のためのリフレクション・ワークショップ」

埼玉学びの会との共催で、センター研究員の武田信子先生(武蔵大学教職課程教授)を講師に迎えて、11月23日(日)、埼玉会館にてワークショップを開催しました。

アクティビティとディスカッションを中心に、リアリスティック・アプローチ(ALACTモデル)による授業リフレクションのワークを体験し、またオランダの教育や、日本の子育てについてレクチャーを受けました。

参加者は、教員、学生・院生、大学教員ら18名で、グループワークの中で、よい関係性を築きながら互いに学び合い、有意義な研修会となりました。

「協同学習を取り入れた英語の授業実践研究会」

新英語教育研究会埼玉支部、埼玉学びの会との共催で、伊藤紳一郎先生(那珂市立第二中学校)を提案者として迎えて、2月15日(日)、センター2F会議室にて実践報告研究会を開催しました。

英語科の協同学習に真剣に取り組んでいる伊藤先生の実践と教室の子どもたちの温かくつながりながらAuthenticな学びを続ける子どもたちの姿に感銘を受け、英語科の協同学習のあり方について考え、またグループで熱心に話し合いました。

鳥取県、静岡県からの参加者を含め、38名の参加者で、熱く有意義な学び合いをすることができました。



教育実践研究部門

教育の臨床の学の探求

実践者・授業者としての
専門性の探究

- 「学ぶ」ことのヴィジョン
- Action のリフレクション

教師の授業実践と 子どもの学びを支援

教室の
アクション・リサーチ
実践知の省察

学生・院生も含めた相互共有

プロジェクト研究

教室の学びとつながりを
編み直すための基礎研究

- 教室と保育室の子どものナラティブを見とることから、関係性を編み直す
- 学びと遊びの「材」の探求から、教師・教材(遊財)・子どもの関係性を編み直す

平成26年度

アクション・ リサーチ連携校・機関

- ・ 越谷市立弥栄小学校
- ・ 鶴ヶ島市立南小学校
同 南中学校
- ・ 熊谷市立中条中学校
- ・ 本庄市立本庄西中学校
- ・ 上里町立上里中学校
同 上里北中学校
- ・ 埼玉学びの会
同 春日部支部
- ・ 栗原市保・幼・小連携研究
- ・ 会津若松市会津若葉幼稚園
- ・ 郡山市立行健小学校
- ・ 須賀川市立西袋第一小学校
- ・ 宇都宮市学校サポート事業
- ・ 宇都宮市立姿川中央小学校
- ・ 宇都宮市立陽東小学校
- ・ 茅ヶ崎市立浜之郷小学校
同 鶴が台小学校
同 香川小学校
- ・ 富山市立奥田小学校
同 大広田小学校
- ・ 伊丹市立天神川小学校
- ・ 富士市立元吉原中学校
同 田子浦中学校
同 富士川第二中学校
- ・ 富山市立岩瀬中学校
同 北部中学校

学校改革・授業改革

- 「聴き合う」「学び合う」学び
- 「探求」と「対話」による学び
- 「同僚性」の構築
- 「アクション」～市民性への学び

【「埼玉学びの会」との共同研究会】

「リアリスティック・アプローチ
(ALACTモデル) による教師のための
リフレクション・ワークショップ」

講 師：武田 信子先生 (センター研究員)

11月23日(日)・埼玉会館

平成26年度 研究員

- 守 屋 淳 氏
北海道大学大学院教育学研究院
- 武 田 信 子 氏
武蔵大学教職課程
- 高 橋 美 保 氏
東京大学大学院教育学研究科
- 能 智 正 博 氏
東京大学大学院教育学研究科
- 小 谷 宜 路 氏
埼玉大学教育学部附属幼稚園
- 霜 村 三 二 氏
元朝霞市立朝霞第十小学校教諭
- 本 谷 宇 一 氏
日本生活教育連盟「ことばと教育」部会
フレネ教育研究会
- 中 村 麻 由 子 氏
東京学芸大学大学院連合学校教育学
研究科教育方法論講座
日本学術振興会特別研究員

Narrative Standard の開発

協働生成・形成的スタンダード

1. 授業と学びを物語ること
2. 形成的評価=発展開発機能
3. カリキュラム開発機能
4. 同僚性を構築すること
5. 授業者としての身体性
聴く ～ 対話
声～Elaboration～交響
レッスンの場としての機能
6. 大学が役割を果たしつつ、
学校コミュニティの場創り

「木曜ゼミ」発

ビデオによる
授業カンファレンス

- 木曜日 午後6時
 - クリニコス・ホール(コモ棟2F)
- 県内外の小・中学校の授業実践のビデオを見て、語り、学び合います。多様な視点の交流により、教師の実践知を学び合ひましょう。

**参加希望の方は、
事前にご連絡を。**

【JICA インドネシア国 教員養成 機関指導者育成 講座】

6月10日(火)・10月6日(月)・
10月19日(日)

JICAプログラムの一環として来日したインドネシアの大学研究者等に「協同的な学びのデザイン」についての講義・ワークショップを行いました。

また「埼玉学びの会」共催の授業カンファレンス研究会に参加して、ともに学び合いました。

学校臨床心理部門

本部門は従来、学部の教員養成に関わる活動、附属学校園との連携強化、研究活動、地域貢献に力を入れています。今年度は特に、教育学部が開発に取り組む「発達障害に強い教職員育成システム」プログラムが文部科学省の事業に採択されたため、この研究事業への協力を行っています。また、附属小・中・特別支援学校の管理職と相談支援担当者による拡大会議の開催や、附属小・中学校のスクールカウンセラー・養護教諭との連絡会議を実施するなど、附属学校園との連携を深める活動を充実させています。

◆教育学部との連携

学部の発達障害支援関連開発プログラムが、文部科学省による「平成26年度発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業（発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業）」に採択され、「埼玉大学教育学部を中核とした発達障害に強い教職員育成システムの開発」と題した研究事業が始まりました。本部門は、プログラム開発の企画と推進において、研究と実践の両面で取組を始めています。

◆教育学部学生への指導・支援

人間形成総合科目「ストレス・マネジメント」の実施

『人間形成総合科目』「ストレス・マネジメント」は開講7年目を迎え、当部門の教員2名と教育実践研究部門の教員1名の3名がオムニバス形式で担当しました。「教職とストレス」では教員養成開発部門の教員2名をゲストスピーカーとしてお招きして教育現場でのストレスと対処法をお話いただき、リアルな内容が受講生に好評でした。音楽教育講座の教員にもプロの演奏家としてのストレスとのつきあい方などを、ピアノ演奏を交えてお話いただきました。今年度も学生の授業評価は高く、「自己理解が深まった」「対処法をたくさん知ることができたので、教職に活かしたい」「コミュニケーションの大切さとコツがわかってよかった」などの感想が寄せられました。

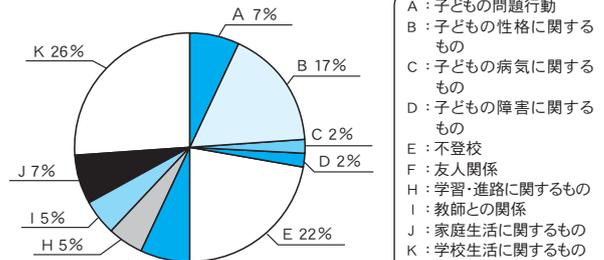
◆附属学校園との連携

附属学校園の児童・生徒、保護者、教員やスクールカウンセラーを対象とした相談活動

この相談活動は、附属学校園との連携の主軸であり、附属小・中学校に配置されたスクールカウンセラーとも連携を図りながら、相談活動を行っています。附属小学校管理職との連絡会議や、附属特別支援学校内相談機関「しいのみ」における相談活動・研究支援も実施しています。

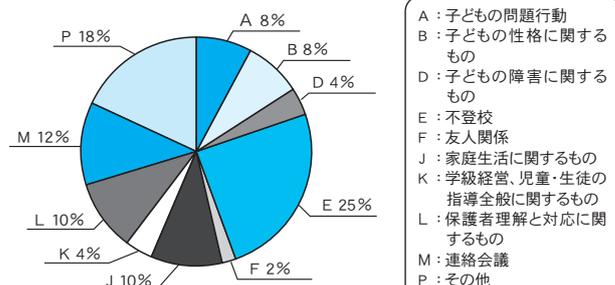
今年度の相談およびコンサルテーションの内容と割合は以下の通りです（2015年1月末日現在）。

相談内容



- A：子どもの問題行動
- B：子どもの性格に関するもの
- C：子どもの病気に関するもの
- D：子どもの障害に関するもの
- E：不登校
- F：友人関係
- H：学習・進路に関するもの
- I：教師との関係
- J：家庭生活に関するもの
- K：学校生活に関するもの

コンサルテーション内容



- A：子どもの問題行動
- B：子どもの性格に関するもの
- D：子どもの障害に関するもの
- E：不登校
- F：友人関係
- J：家庭生活に関するもの
- K：学級経営、児童・生徒の指導全般に関するもの
- L：保護者理解と対応に関するもの
- M：連絡会議
- P：その他

◆さいたま市（教育研究所）とのコラボレーション講座の開講

教育実践研究部門とともに、「教職員のためのメンタルヘルスとリラクゼーション講座」を毎月開講しています。また、教員養成開発部門と共同で「教職員キャリアアップ・サポートセミナー」を4回開講しました。このセミナーは、教育学部長裁量経費を得て、さいたま市立小・中・特別支援学校に勤務する教員と臨時的任用教員、さわやか相談員談員、学級支援員、学生らを主な対象に行われ、毎回多くの参加者があり、好評でした。

◆研究活動

研究員と共に取り組んだ研究報告は以下の通りです。

- ・「国立大学と附属学校園における教育相談活動に関する連携2—国立大学附属特別支援学校養護教諭を対象とした意識調査結果から—」尾崎啓子・相澤直子（埼玉大学教育学部附属特別支援学校特別支援教育臨床研究センター年報第5号、印刷中）
- ・「高校3年間における学習方略と自己効力感の獲得との関連—英語学習の視点から—」若海由美・尾崎啓子（センター紀要第14号、印刷中）
- ・「学校カウンセリングに関する国立大学と附属学校園との連携3—養護教諭に対する支援として—」相澤直子・尾崎啓子（センター紀要第14号、印刷中）

教員養成開発部門

「教員養成開発部門」は、平成26年度も引き続き、埼玉県及びさいたま市教育委員会と連携し、教員養成の充実、教員の資質能力の向上等について、より一層実践的な研究及び活動を行っています。

1 教育委員会との連携を視野に入れた「学校フィールド・スタディA」の実施

大学と学校現場との学びを往還的につなぎ、質の高い教員としての資質能力を養成する目的で実施している本授業は、平成26年度も引き続き、学びのフィールドを幼稚園、小・中・高等・特別支援学校に確保し、学生の体験の充実を図ってきました。本授業を推進する観点から、以下の活動を実施しています。

- 事前授業の実施（4月・10月）
- 実施校への視察と協議の実施（1月）
- 振り返り授業①②の実施（10月・12月・1月）
- 学習相談、補充授業の実施（適宜）

特に、振り返り授業①②では、指導者として埼玉県・さいたま市教育委員会の方に御講義をいただいたり、グループ協議の中で指導講評をいただいたりしています。



【グループ協議の様子】

2 進路指導委員会、教職支援室との共催による教職支援セミナーの実施

教職支援セミナーは、教員としての職務を円滑に進めることができる能力や、教員としての見方・考え方等の資質の育成を図ることを目的としています。

教育に係わる国の動向、埼玉県・さいたま市教育委員会の推進する教育施策、学校現場の抱える様々な課題、サービスと教育法規等についての講義を実施しています。

主として、前期には4年生対象プログラムを、後期には3年生対象プログラムを実施しています。各プロ

グラムともおよそ300名の学生が参加し、教職に対する理解を深める機会となっています。

さらに、平成26年度からは、学生からの様々なニーズに対応するため、個別相談を実施しています。相談の内容は、面接、志願書、論文などです。また、教職に対する意識高揚のため、2年生全員を対象にした面談も実施しました。



【面談の様子】

3 教職スタート準備講座の実施

卒業後、教職に就く予定の学生を対象に、実践的な能力の習得を目指し、10月から2月までの間、約30名の学生が参加し、講座を実施しています。即戦力となる資質・能力を身に付けさせ、質の高い教員として学校現場で活躍できるよう、以下のとおり、プログラムを一層工夫し開催しています。

《プログラム例》

- ・教科等の授業づくり（ICTの活用を含む）
- ・学校の1年間と教師の1日
- ・保護者との出会いと対応
- ・学校事故への対処
- ・生徒指導の鉄則 等

なお、講師については、教育委員会、附属学校教員をはじめ、学校教育の第一線で活躍されている方を招聘しています。

4 さいたま市立小・中学校等の研究発表会への学生参加

さいたま市教育委員会の協力の下、さいたま市立小・中学校等研究発表会への参加を促し、教育実践や学校研究に触れる機会を設けています。

平成26年度は、現在まで、およそ70名の学生が参加し、学校現場に触れ、指導方法等への興味・関心を深める機会となっています。

＝ センターの基本理念・目的 ＝

(1) 教育の臨床の学の探求

人間と人間の関係性を軸にした教育実践の本質を、理論的・実践的に探究し、確立をめざす。

(2) 教育の臨床の学にもとづく教育実践への具体的関与

(1)に基づき、学校、地域・社会における教育実践・心理教育相談に直接的に関与する。

(3) 教員養成の研究と教育

(1)に基づき、現職教育を含む教員養成の研究を行い、学部の教員養成を直接的に支援する。

(4) 教育実践の連携媒体としての機能

地域・社会教育と連携し、学内外の教育にかかわるさまざまな立場、諸機関・組織をつなげ、連携の媒体となるとともに、学部教員養成の媒体的機能を果たす。

スタッフ

センター長……………岩川 直樹
 教育実践研究部門……………庄司 康生・北田 佳子
 学校臨床心理部門……………尾崎 啓子・椋田 容世
 教員養成開発部門……………小野 圭司・駒崎 弘匡

兼任教員……………岩川 直樹・船橋 一男
 野村 泰朗・宇佐見香代
 磯田三津子・澤崎 俊之
 堀田 香織

事務補助員……………穴戸 珠美

施設（貸出）使用の手続き

1. 使用を希望する人は、あらかじめセンター事務室に連絡し、希望する日時の使用予定状況を確認した後、「使用許可申請書」を事務室に提出する。
 センター事務室担当者は、原則として火、水、金曜日に在室です。
2. 鍵の受け渡し
【学部教員の場合】
 事務室の担当者と受け渡しの日時を確認の上、正面玄関の鍵を受け取りに来る。鍵貸出簿に署名し、貸出時刻を記入する。使用当日（当日が不可能な場合はできる限り速やかに）に返却し、貸出簿に返却時刻を記入する。
【附属学校・園教員の場合】
 使用の直前に、附属小学校教員室に、2階出入り口の鍵を受け取りに来る。鍵貸出簿に署名し、貸出時刻を記入する。使用直後に返却し、貸出簿に返却時刻を記入する。
3. 使用設備など
 使用後は清掃を行い、使用した設備等は原状に復帰する。
4. 火気、施錠の確認
 使用者の責任において、使用後の火気の始末、施錠を確認する。

アクセス



埼玉大学教育学部附属教育実践総合センターニュース

No.9 2015年3月13日 発行

編集・発行 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤6-9-44

Tel.048-832-9866 Fax.048-831-0044

<http://www.center.edu.saitama-u.ac.jp/>